

CBDCフォーラム
各Discussion Groupの今後の進め方

2026年5月
日本銀行決済機構局



CBDCフォーラムの運営見直しとこれまでのWG等との関係

- 本年1月末に提示したフォーラム再編の概要図は以下の通り。

WG1 : CBDCシステムと外部インフラ・システム等との接続

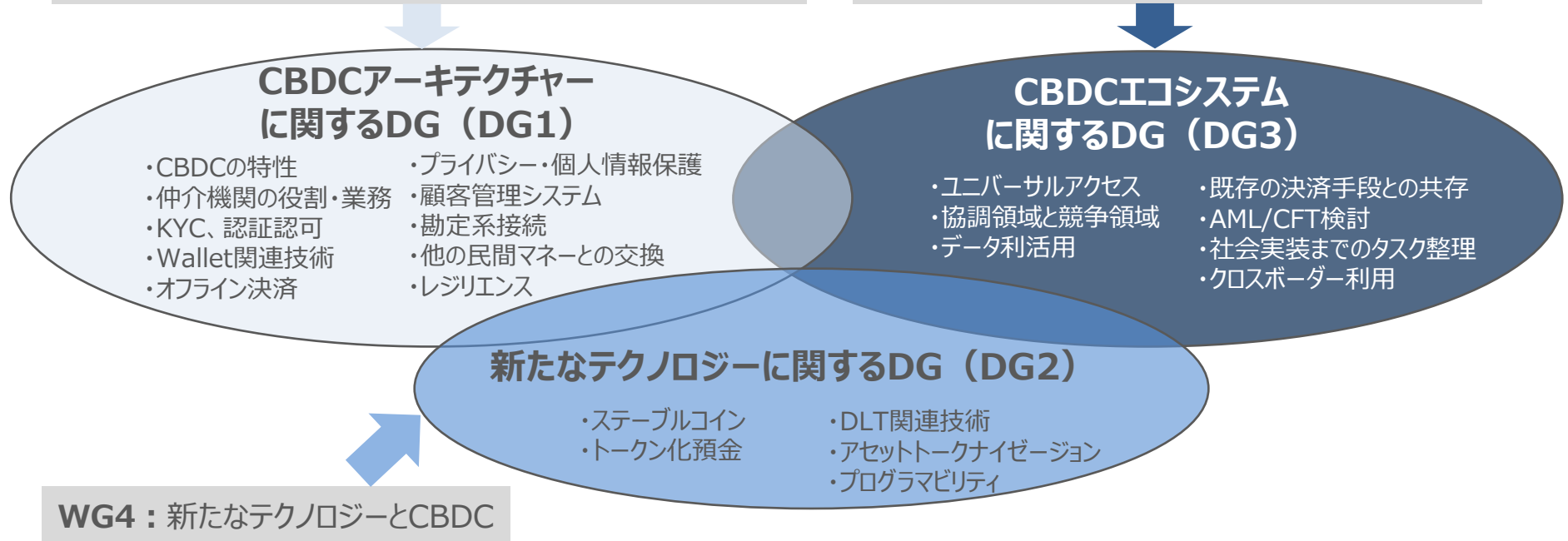
WG3 : KYCとユーザー認証・認可

WG5 : ユーザーデバイスとUI/UX

WG7 : 基本機能の事務フロー

WG2 : 追加サービスとCBDCエコシステム

WG6 : 他の決済手段との水平的共存



- ヒアリング結果等踏まえ、今後の運営の方向性として以下の点を提示。

- ① 本行からの情報発信と双方向での議論
- ② テーマ別WGでの議論一巡・WGの統合再編
- ③ 全体感・スケジュール感の提示

各DGの基本的な進め方

DG1 : CBDCアーキテクチャーに関するDG

- WG1、3、5、7の検討結果を引き継ぎつつ、**社会実装をするうえで「最低限必要な機能」**にフォーカスして、CBDCのアーキテクチャーに関するシステム・実務および制度上の論点を検討。**実際のCBDC利用の想定シーン例**に則して、既存システムや民間実務に影響が出そうな論点について、**制度・システム両面から議論**することを想定。

DG2 : 新たなテクノロジーに関するDG

- WG4の枠組み（=**将来的に活用しうる技術**に着目し、必ずしも現在の技術的な前提や制約を意識せずに**自由に議論**）を引き継ぎつつ、DLT関連技術やトークナイゼーション、ホールセール関連等を議論。**DLT連携サンドボックスプロジェクトとも適宜連携**。

DG3 : CBDCエコシステムに関するDG

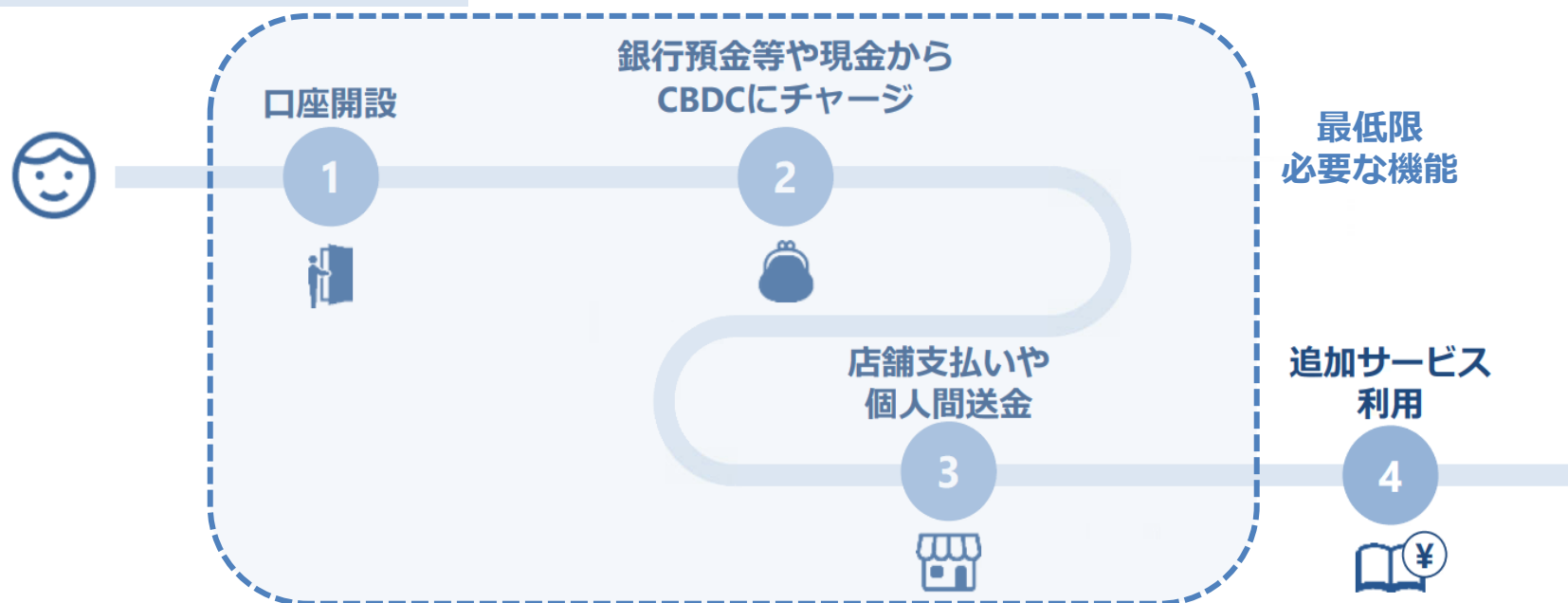
- WG2とWG6の基本的なコンセプトを引き継ぎつつ、**CBDCエコシステム全体を俯瞰**したうえで、DG1やDG2で取り扱わないテーマを中心に議論をしていくことを想定。

DG1会合プラン

(前提)

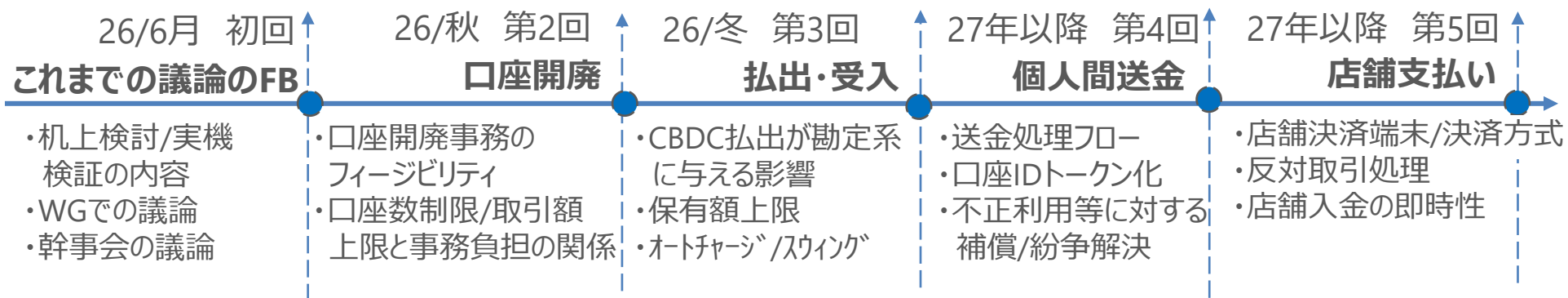
- DG1では、実際の**CBDC利用の想定シーン（ユーザージャーニー）**に則して、既存システムや民間実務に影響が出そうな論点を設定し、議論を行う。
- 「システム・実務」では、**実験用システムの検討結果**等を示しつつ議論（WG7のイメージ）。「制度」では、主に**関係府省庁・日本銀行連絡会議・幹事会等**における検討結果等を示しつつ議論。

CBDC 利用の想定シーン例



DG1会合プラン

- **形式**：頻度は**2～3か月に1回程度・対面を主としたハイブリッド形式**・事務局等によるプレゼンとパネルディスカッションによる2部構成
- **コンテンツ**：CBDC利用の想定シーンに則して、**口座開廃、払出・受入、個人間送金、店舗支払い**を各会合のテーマとして設定
 - ✓ **初回会合**：本行内での机上検討・実機検証の内容やWGでの議論について事務局から説明を行うほか、幹事会における制度上の議論の概要について説明を行う。
 - ✓ **事務局等によるプレゼン**：各テーマに関する本行または幹事会での検討状況等を深掘りし、パネルディスカッションにおける前提および論点を提示する。
 - ✓ **参加者によるパネルディスカッション**：事務局等によるプレゼンで設定した前提を踏まえ、各テーマについて専門的な知識を有する参加者に議論して頂く（モデレーターは事務局を想定）。



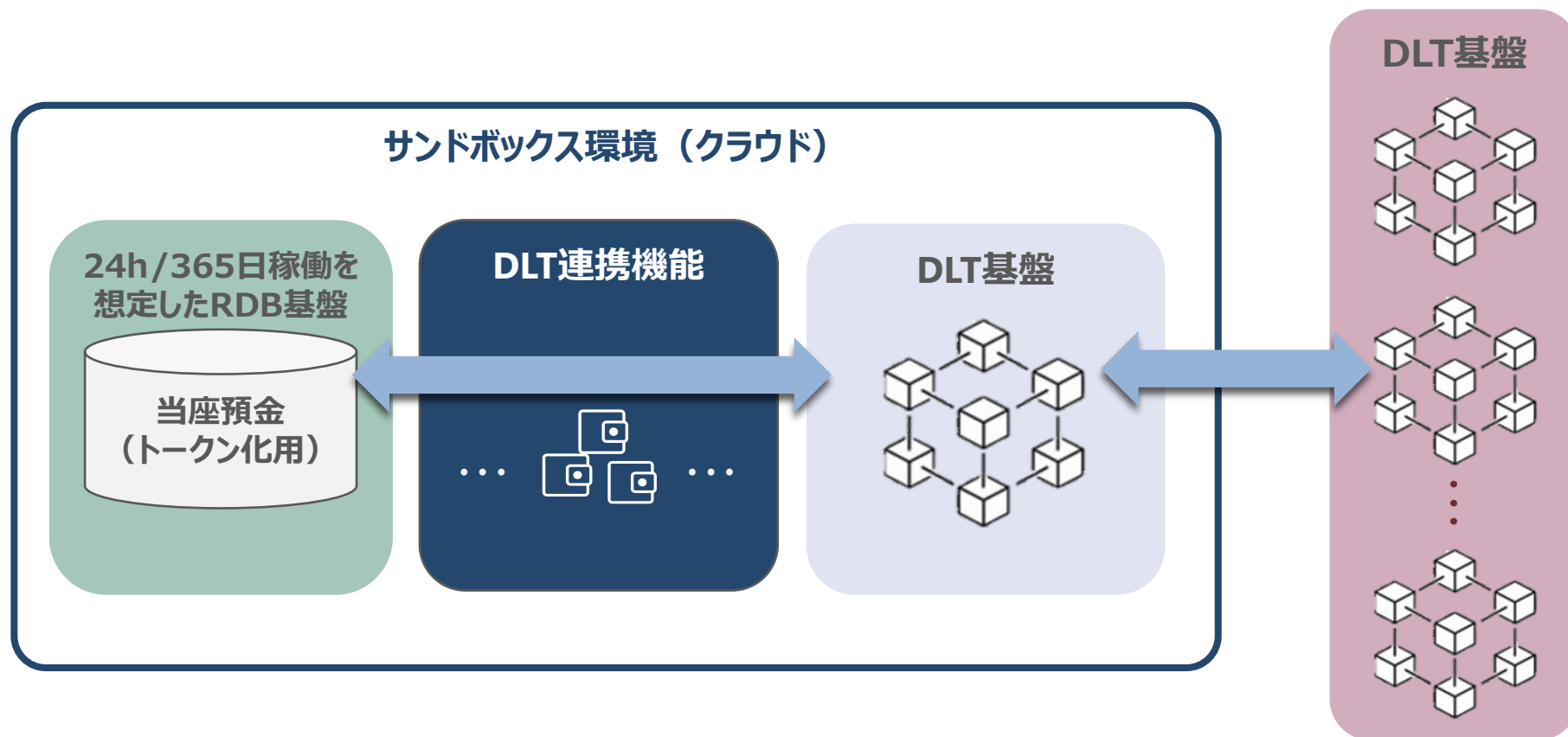
DG2会合プラン

- **形式**：頻度は**2か月に1回程度**・**完全オンライン形式**・各回1時間半程度
- **コンテンツ**：当面は、**事務局からの海外動向アップデート**や、**参加者からのトークン化関連技術/ユースケースを紹介**し、DLT連携サンドボックスプロジェクトを意識した論点で、適宜指定討論者を立てながら議論を行う想定。
 - ✓ **事務局からの海外動向アップデート**：DLT連携サンドボックスでも参照している**Agora**、ECB・BOE等の**トークン化中銀マネー**関連の動向アップデートを想定。
 - ✓ **参加者からのトークン化関連技術・ユースケースの紹介**：**既存のCBDC実験**の技術特徴（リテール・ホールセール・クロスボーダー・オフラインをカバー、マルチチェーン・パブリック/プライベートチェーンの併用）、**プライバシー保護技術**（技術動向等）、**DeFi**、**ステーブルコイン**、**トークン化預金**等。



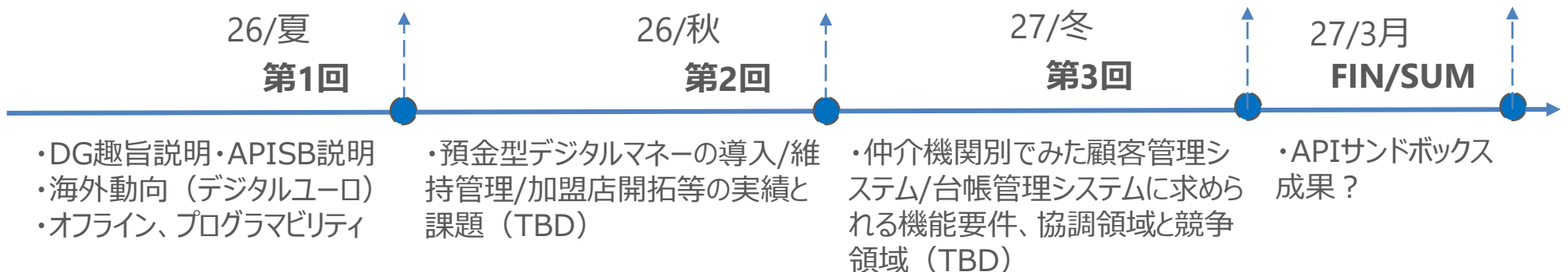
(参考) DLT連携サンドボックスプロジェクト

- 近年、**デジタル資産**や**トークン化資産**などの新しい資産が登場していることを踏まえ、海外主要中銀では、これらを安全かつ効率的に決済する観点から、DLTなどの新しい技術を用いて、**ホールセール決済システムの改善に向けた取組み**が進められている。
- 日本銀行でも、日銀当座預金をトークン化する場合の技術的・実務的な課題について、「**DLT連携サンドボックス**」を用いて、検討を行っていく方針。



DG3会合プラン

- **形式**：頻度は**3か月に1回程度**・各回1時間半～2時間程度・**原則オンライン形式**。
- **コンテンツ**：海外動向アップデート、**CBDC社会実装時の課題・タスク整理**、仲介機関別でみた顧客管理システム・台帳管理システムに求められる機能要件等について取り上げる。並行してAPIサンドボックスプロジェクトにも取り組んでいく。
 - ✓ **事務局からの説明**：検討が先行しているデジタルユーロの動向、ECBのイノベーションプラットフォームやパイロット実験の内容（オフライン機能、プログラマビリティ等）を中心にプレゼン。
 - ✓ **参加者からの事例紹介**：CBDCの社会実装時の課題/タスク整理を考える観点から、預金型デジタルマネーの導入/維持管理/加盟店開拓等の実績と課題をプレゼンしてもらうほか、仲介機関別でみた顧客管理システム/台帳管理システムに求められる機能要件、競争領域/協調領域に関するプレゼン・ディスカッションを想定。



開催形式と進め方（共通ロジ関連）

- 開催形式は以下の通り。

- **対象者** : フォーラム参加企業**全社**（含む関係法人）
- **頻度** : **2～3か月に1回**程度（DGによって前後）
- **プレゼンタ** : 日銀および必要に応じて参加者
- **モデレータ** : 原則、日銀にて対応
- **ディスカッサント** : **事前に参加者から数名指定**